

教育サポート報告

五十嵐 敏彦

【サポートの現場】

江別市 野幌小学校（特認校）6年1クラス 19人

平成 15 年 11 月 19 日 2～4 時間目

子供たちによる簡易サンプリングの体験と、理科の授業「地層」のまとめ

担 当：五十嵐 敏彦

資料機材提供：池田 晃一・佐藤 厚子

【サポートの内容】

たまたま娘が通っている学校の理科の授業で「地層」が取り上げられていたため、丘珠小学校と同じような体験型授業が出来ないか担任の先生に提案してみたところ、是非にとありがたいお言葉を頂き、丘珠小学校の時と同じようにピートサンプラーを用いた泥炭のサンプリングを体験してもらった。

ただ、既刊の地質図幅によれば学校の敷地には硬質な粘土が分布することが予測されたため、子供でも掘れる泥炭を狙い、学校から 300mほど離れた元 P T A の方の畑をお借りして深度 4mほどを掘削した。

掘削に先立って、子供たちに何が掘れるだろうと質問したところ、既に授業で勉強していた？せいか、粘土とか砂といった答えが多かった。ところが、掘りあがるのはドロドロのベチャベチャした土（泥炭）で、はてこれは何だろう？？と、興味を持ったようだった。ただ、農家の子が多い土地柄のせいか、はたまた畑を掘っていたせいか「これは堆肥だよ」という声が根強く、どうしても話がウンチのほうに進んでいったのはしょうがないか？

それでも匂いをかいだり、ほぐして繊維を取り出し植物みたいだ、といった具合に泥炭を観察していた。が、深度 3m付近から還元性の青粘土が掘りあがり、様相が一変した。この学校では野幌丘陵の土を使った土器作りが盛んで、子供たちは泥炭よりこの青粘土が珍しかったらしく、掘りあがるたびに「これちょうだい！」の連発で、全員がサンプルを持ち帰る「お土産つき」の楽しい授業となった。



サンプリングを楽しむ？（体験する）子供たち

その後、教室に戻って泥炭を燃やしたり、地形図や地質図を見ながら川や海が運ぶ土砂の話や、野幌の泥炭の話をしたが、野外の体験から室内の授業へと3時間連続だったことや、かつ昼食前でお腹がすいたのか、ボーとしていた子が多かったのは止むを得ないか……。それでも、小学校6年生は12円でおじさんは47円とか、「地質調査は探偵だ」という話は面白かったらしく、そういった話が頭の片隅にでも残っていてくれれば良いんだけどなぁと感じた半日だった。